

# 【道徳・小4「せいいっぱい生きる」 D 生命の尊さ】①

## 育成を目指す資質・能力

＜ 内容項目 ＞ D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 19：生命の尊さ  
〔第3学年及び第4学年〕生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

＜本時のねらい＞ 尊い生命を輝かせて生きていくことの大切さについて、登場人物の思いや願いを基に話し合う活動を通して、今生きていることの有り難さがわかり、自らの生命を輝かせ精一杯生きていこうとする心情を育てる。

## ICT活用のポイント

学習支援ソフトのシンキングツールを活用することにより、多面的・多角的に考え、自分の考えを深めることができる。

### 【導入】ICT活用場面①

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

### 【展開①】ICT活用場面②

教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

### 【展開②】

道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

### 【終末】

本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

## 事例の概要

### 【ICT活用場面①：教材の拡大提示と児童への配信】

○プロジェクターを用いて、教材の一部である詩を黒板に拡大提示する。また、同じ画像を児童にも配信する。

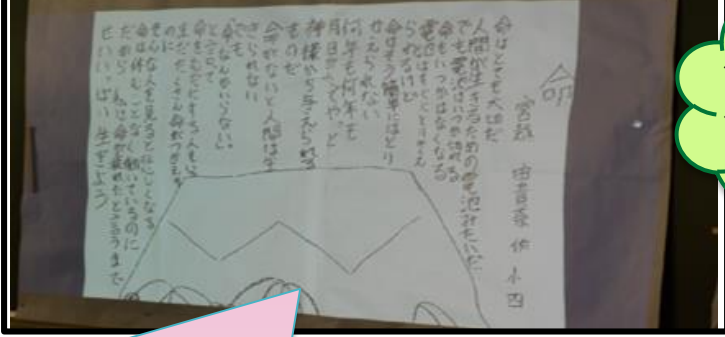
### 【ICT活用場面②：シンキングツールの活用と共有】

- 二人の登場人物、また、二人に共通する、思いや願いを捉えやすくするために、シンキングツールのベン図を活用する。
- ベン図の3つの部分（二人の登場人物と、共通する部分）によって付箋を色分けし、書き込む内容は短い言葉とする。
- 児童全員が、二人の登場人物と二人に共通する部分について、考えたり、友達の考えに触れたりできるように、児童を2グループに分け、それぞれのグループに、まずどちらの登場人物について考えるかを指示する。時間が経ったら、もう一方の登場人物について考える。そして、両方の登場人物について考えられたら、共通する部分について考えることとした。
- 児童は各自の端末で進めるが、黒板にもベン図を拡大提示した。
- ベン図に貼られた付箋を基に、学級全体で考えを交流する。

# 【道徳・小4「せいっぱい生きる」 D 生命の尊さ】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】

### 教材の拡大提示と児童への配信



- 児童の意識が拡大提示された詩に集中し、本時のめあてをつかむことにつながった。
- 児童に配信しておくことで、展開の部分では、各児童が必要に応じて詩を再度見て、自分の考えをもつことにつなげることができた。

- ベン図を活用し、付箋も色分けをしたことで、二人の登場人物それぞれの考えと、その共通する考えが、視覚的にもわかりやすく整理され、交流活動を進める際に有効であった。
- 児童は各自の端末で進めるが、黒板にベン図を拡大提示することで、指導者が指導者用のタブレットをのぞき込んでばかりいるのではなく、視線を児童に向けながら、問いかけたり問い返したりすることができた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】

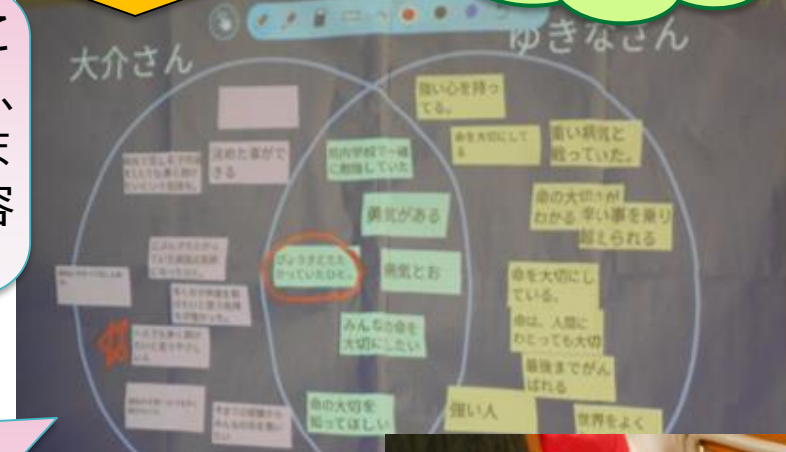
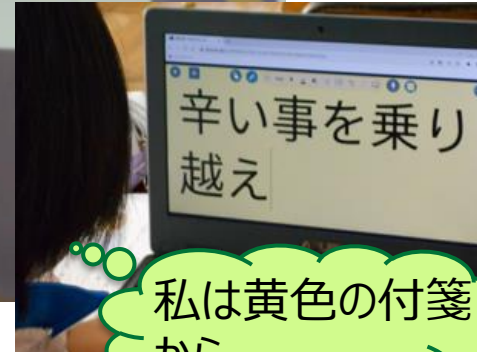
### シンキングツールの活用と共有

私はピンクの付箋を使って、大介さんの考えから。



付箋への入力には短い言葉にすることで、児童は短時間で入力ができ、考える時間の確保につながった。また、友達の考えを把握することも容易にできた。

私は黄色の付箋から。



なるほど。友達はこのことを考えたんだな。

